令和元年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 大槌町社会福祉協議会	代表者	徳田 信也	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・前事業所は東日本大震災で全壊流失したため、現事業所は津波到達の心配のない地域にあり安心な利用ができる環境になりました。災害時には地域のみなさんの一時避難所としても活用できるよう備蓄品も整備してあります。 ・地域にも民家が増えてきており、皆さんの集会所的な役割も果たしています。 ・職員一同、可能な限り利用者様個々のニーズに対応ができるよう努めています。
事業所名	ほっと おおつち	管理者	白澤 和賀子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	2人	人	人	人	人	4人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修を年2回実施、研修内容を施設内で共有し実践につなげる。 ・申し送り事項は全員に周知するまで、ミーティングで繰り返し報告する。 ・制服の着用と外出時の名札着用を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修を職員が講師となり9月と12月に開催。利用者や業務に繋がる内容となった。 ・業務日誌を活用し朝夕のミーティングで繰り返し申し送り報告している。 ・外出時は名札着用を心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員が改善計画を理解し、取り組んでいるが、達成できたと思わず再検討する事や継続する姿勢が必要だと思う。 ・名札や制服の着用は家族や地域でも安心感につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修の継続。 ・業務日誌は目視を徹底し、ミーティングの申し送り、周知に繋げる。 ・全員ミーティングを定期的に設け、意思疎通を図る。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して環境整備を全員で意識し対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の草刈作業に合わせた共同作業や、駐車場や建物周辺の環境整備に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境整備に合わせ、敷地内の草刈りやゴミ拾い等、地域との一体感を感じる。 ・立地上仕方がないが、工事等の煙が多く、洗濯物等に配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備作業の継続。 ・施設内の整理整頓を行い効率的な動きと安全を維持する。
C. 事業所と地域の かかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・施設行事やイベントは回覧板やチラシで案内し参加してもらう。 ・施設訪問や見学をオープンにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設のイベントはチラシで地域の協力を得ながら案内することができた。 ・地域住民の参加者は減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型なので、イベントの住民参加が減少することには改善が必要だと思う。 ・地域でも利用者以外施設に無関心と思える。また、利用者家族は施設に行く事に抵抗はないと思うが、一般の人には敷居が高いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や地域ボランティアの受け入れを計画し施設を知ってもらう。 ・地区集会所の見学や地域の散策で、住民とふれあいの場を作る。
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して地域のイベントに出かけ積極的に社会参加を行う。 ・季節の変化や慣れ親しんだ地域の様子を感じてもらい取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内のイベントや行事に出向き、外出の機会を作ることができた。 ・ドライブを通して、町の様子や季節の変化を楽しんでもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事やイベントには参加できていると思う。継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出する機会や時間を継続して設け、多くの利用者に気分転換や生活の変化を感じてもらおう。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の協力を得ながら、都度問題提起や解決につながるアドバイスをいただいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の問題や意見を情報として頂き、施設内で共有できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の問題は会議では分からないことが多い。地域の民生委員から情報をもらったらどうか。 ・会議の資料の作り方の工夫が必要。ケース等、具体的なエピソードや対応をあげればイメージしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に留意しながら、施設内の様子を会議等で知らせていく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や災害への対応を常に意識しながら全員で訓練に取り組む。 ・地域の協力を得るため、日頃から声掛けや顔を知る関係作りに務めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練と夜間想定訓練を実施、課題等再確認しあった。 ・避難準備情報発令時は緊急連絡網に沿って迅速な対応が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の訓練は大事。地域の協力も必要だし、地域住民にとっても施設は頼りになる存在だと考える。普段から声掛けを継続して行ってほしい。 ・事故につながるよう慣れた道でも気をつけて運転するように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施を継続。 ・定期的に連絡手段や機器の使用方法を認識しあう。
----------------------------	---	---	--	---